

くすり一口メモ

## 2型糖尿病治療の新時代への期待

### —新薬DPP-4阻害薬の登場—

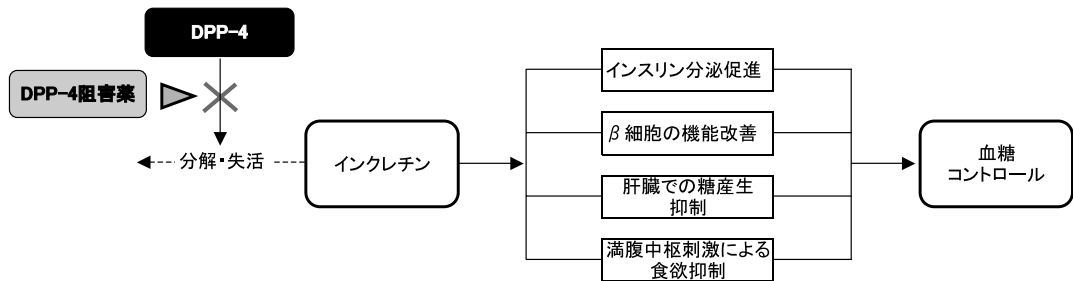
2型糖尿病治療に新たな選択肢が提示されつつあります。その一つが「DPP-4阻害薬」です。ここ数年、糖尿病治療薬の開発をめぐるニュースなどでDPP-4という言葉を目にする機会が多くなりました。DPP-4とはジペプチジルペプチダーゼ-4の略で、インスリン分泌を促進する「インクレチン」と呼ばれる一群の腸内ホルモンを分解する酵素です。DPP-4を阻害しインクレチンの分解を防ぐことによって、血糖コントロールを保てるとの考えから、現在多くの製薬企業がDPP-4阻害薬の開発にしのぎを削っています。欧米ではすでにいくつかの薬剤が上市されていますが、日本でもまもなくDPP-4阻害薬が臨床で使われるようになります。DPP-4阻害薬がこれまでの経口糖尿病薬と異なる点についてまとめてみました。

#### 低血糖を起こさず血糖値を下げる

これまでの経口糖尿病薬は、強制的にインスリンを分泌させるものでした。しかし、DPP-4阻害薬は、「血糖値を下げなければならない時にはインスリンの分泌を促し、血糖を下げる必要がない時には分泌させない」という生理的な働き方をします。インクレチンによるインスリン分泌にはグルコースにより細胞内でCaが増加することが必要です。そのためインクレチンは血糖値が低い状態ではインスリン分泌は増加せず、血糖が高くなって初めてインスリン分泌を促進します。つまり低血糖を起こしにくいという特徴があります。

#### 膵臓を保護する

インクレチンは膵細胞を増やしたり、細胞が死滅するのを防いだりと、膵臓の保護作用を有することが示唆されています。このことは、従来の糖尿病治療薬が細胞毒性を有するのではないかと警鐘が鳴らされているのと正反対です。更には、インクレチンは中枢に作用して食欲抑制作用を有することも明らかとなっています。したがって、従来の糖尿病治療薬がほとんど体重増加を来しやすかったのに対し、インクレチンを増強させるDPP-4阻害薬は体重減少も期待できそうな興味深い薬物です。



インクレチンとDPP-4

DPP-4阻害薬は、低血糖や体重増加の危惧なしに食後の血糖上昇の病態に介入できる優れた薬剤ですが、長期投与した場合の副作用はまだ明らかではありません。また、DPP-4はインクレチン以外にも生体の様々な調節機構に関わっており、それらを抑制することで生じる副作用が危惧されています。

月刊薬事 2009.4 Vol.51 No.4参照  
(鹿児島市医師会病院薬剤部 西辻 恭子)